

日本運動器理学療法学会
第5回サテライトカンファレンス
抄録集

【会期】2025年9月13日（土）14時～18時

【形式】WEB開催（オンデマンド配信あり）

【テーマ】

運動器理学療法におけるアウトカム指標の活用

【概要】

近年、リハビリテーション医療において「アウトカム」の重要性がますます高まっており、理学療法の効果を多面的に評価し、その有用性を社会に示すことが求められています。

第5回サテライトカンファレンスでは、「運動器理学療法におけるアウトカム指標の活用」をテーマに掲げ、現場で実際に用いられているアウトカム評価の実例や課題を共有し、今後の標準化・体系化に向けた議論を深めます。本企画は、第13回日本運動器理学療法学会学術大会におけるメインテーマ「運動器理学療法におけるアウトカムを確立する」にもつながるものであり、臨床と研究の橋渡しとなる場を目指します。

アウトカムをいかに臨床で活用し、理学療法の質の向上や説明責任に結びつけていくか。その実践的な視点を通じて、参加者それぞれが日々の臨床に新たな視座を持ち帰ることを期待しています。

【プログラム】

14:05～15:05	1. 特別講演 (60 分) 「理学療法への介入の効果判定としてのアウトカムの活用」 演者：宮田 一弘 氏 (茨城県立医療大学) 司会：西上 智彦 (県立広島大学)
15:15～16:15	2. 指定演題 (20 分×3 / 質疑応答含む) ① 股関節疾患におけるアウトカム指標の臨床活用 藤田 努 氏 (九州大学病院) ② 膝関節疾患におけるアウトカム指標の臨床活用 谷口 匡史 氏 (京都大学) ③ 足関節疾患におけるアウトカム指標の臨床活用 越野 裕太 氏 (北海道大学) 司会：阿南 雅也 (大分大学)
16:25～17:25	3. シンポジウム (20 分×3) 「腱板修復術後におけるアウトカム指標の活用」 シンポジスト： 川井 誉清 氏 (松戸整形外科病院) 伊藤 雄 氏 (整形外科 北新病院) 井上 彰 氏 (慶友整形外科病院) 司会：原田 伸哉 (令和健康科学大学) 谷口 隆憲 (福岡国際医療福祉大学)
17:30～18:00	4. 総合討論 (30 分) シンポジウムの講師 3 名 司会：原田 伸哉 (令和健康科学大学) 谷口 隆憲 (福岡国際医療福祉大学)

【特別講演】

理学療法の介入の効果判定としてのアウトカムの活用

茨城県立医療大学 保健医療学部 理学療法学科 宮田 一弘

理学療法の基本プロセスは、検査・測定→評価→予後予測・(診断) →介入→効果判定である。このプロセスは常に循環しているものの効果判定はアウトカム(帰結・結果)によって、適切に実施されなければならない。効果に関しては、予防・改善・抑止などの考え方があるが、今回は「改善」に着目し、アウトカムメジャーの得点変化の解釈に用いられる臨床的に意義のある最小変化量(MIC: minimal important change)について解説する。

【指定演題】

股関節疾患におけるアウトカム指標の臨床活用

九州大学病院 リハビリテーション部 藤田 努

人工股関節置換術（THA）における手術支援機器の発達や手術適応の拡大に伴い、質の高い身体機能やQOLを求める中年層と、フレイルや併存疾患を抱える高齢者とは、術後理学療法におけるアウトカム指標や目標は異なることが予想される。本講演では、当院で得られた臨床上のリアルワールドデータをもとに、二極化する症例に応じたアウトカム指標を提示し、その有効な臨床活用方法を議論する。

膝関節疾患におけるアウトカム指標の臨床活用

京都大学大学院 谷口 匡史

一般に臨床成績の評価に用いられるアウトカム指標は、患者立脚型評価尺度であり、各種膝疾患に対する日本語版が整備・活用されている。これらは、疼痛や日常生活における機能障害の程度およびその変化を把握するうえで有用であるが、運動機能のどの要素が影響しているのかを明確にすることはできない。それに対して筋機能の評価は理学療法を展開するうえで、非常に重要である。本講演では、臨床における筋機能の定量的評価法について紹介し、膝関節疾患への応用について考えたい。

足関節疾患におけるアウトカム指標の臨床活用

北海道大学 大学院保健科学研究院 越野 裕太

足関節疾患は複雑かつ多様な病態を示す。例えば、足関節外側靭帯損傷では、関節可動域制限や不安定性、筋力低下などの機能的・構造的問題に加え、疼痛や主観的な不安定感といった感覚的問題も認められる。これらは主要アウトカム指標として提唱されているが、臨床活用には課題も多い。本発表では、足関節疾患における主要アウトカム指標とその臨床活用におけるポイントと課題について概説する。

【シンポジウム】

腱板修復術後におけるアウトカム指標の活用

松戸整形外科病院 川井 誉清

当院では術前から術後 1 年までの定期評価を通じて、再断裂率の低下と臨床成績の向上を目指した取り組みを行っている。本講演では、1000 例以上のデータから得られた再断裂や拘縮、CRPS 様症状に関する予測指標と早期対応の工夫を紹介し、アウトカム指標をどのように臨床判断や治療計画との関連について報告する。

整形外科北新病院 伊藤 雄

腱板修復術は良好な成績が報告されている一方で、腱板修復術後のプロトコル、評価項目においては未だ施設間においてバラつきがあり、標準的なアウトカム指標の確立には至っていないのが現状である。本発表では当院における腱板修復術後のプロトコルやアウトカム評価を紹介し、我々が検討してきたアウトカム指標の臨床的・研究的活用方法、特に、術後の関節可動域や主観的肩機能スコアの改善に向けた検討について紹介し、共通のアウトカム指標の確立に向けた議論の一助としたい。

慶友整形外科病院 井上 彰

ARCR 後の機能評価においては、JOA スコア、ASES、Constant スコアなど複数のアウトカム指標を併用する臨床実践が広がっています。本シンポジウムでは、術前ならびに術後 3、6、12、24 か月における共通評価項目を設定し、定量的データの比較と経時的変化の分析を試みた取り組みを紹介します。加えて、当施設における独自の術後プロトコルおよび具体的な後療法を進め方についても紹介し、実践的な議論を展開することを目的とします。